# 2014年6月：JaCVAM活動マンスリーレポート

| NO. | 項　　目 | 記　載　内　容 |
|---|---|---|
| **新聞** | | |
| 1 | 発表者名もしくは掲載者名 | 小島　肇 |
| | 記事名 | Japan urged to make its cosmetics ‘cruelty-free’（日本は動物実験抜きの化粧品を目指す） |
| | 掲載紙及び掲載日時 | ジャパンタイムズ，平成26年6月3日 |
| | 掲載内容 | EUの動向を見据え，日本においても動物実験をしないで安全性を担保した化粧品の開発およびその販売が望まれている． |
| **国内学会** | | |
| 2 | 発表者名 | 小島　肇 |
| | 演題名 | OECDテストガイドラインナショナルコーディネーター会合報告 |
| | 学会名，発表年月及び場所 | JEMS/MMS研究会第64回定例会，平成26年6月20日，森の温泉ホテル（静岡県熱海市） |
| **レギュラトリーサイエンス学会** | | |
| 1 | 参加者名 | 小島　肇 |
| | 会議名 | OECD 7th Task Force on Hazard Assessment and the Extended Advisory Group on Molecular Screening and Toxicogenomics「経済協力開発機構　第7回有害性評価タスクフォース会議及び分子選別及びトキシコゲノミクス諮問委員会会議」 |
| | 開催場所，年月 | パリ（フランス），平成26年6月10-13日 |
| | 会議内容 | OECDでは，昨今，種々の毒性に関するAOP（有害性転帰手法）の開発を進めている．この開発をより加速するためのツールとして，user manual やAOP wikiを整備している段階である．会議では，これらの内容説明を受けるとともに，ツールの改良について意見交換した． |